

第3回学校規模適正化・適正配置推進計画策定委員会(会議録)

1 日 時 令和7年1月24日(金)、18時30分～20時10分

2 開催場所 中妻地区生活応援センター 大集会室

3 出席委員 市村かおり委員、山蔭深思委員、小笠原慎二委員、内川留依委員、小笠原英美委員、佐々木猛委員、福成菜穂子委員、檜山知美委員、柴田渥委員、洞口政伸委員、市川淳子委員、鈴木崇委員(12人)

4 欠席委員 長谷川利香委員、上小路悠子委員、遠藤一彦委員、合田育美委員、佐々木啓二委員、常陸奈緒子委員、藤井智哉委員(7人)

5 事務局 高橋勝教育長、藤井充彦教育部長、笹村聡一総務課長、佐々木薫学校規模適正化推進室課長、鈴木隆光学校教育課主幹、佐々木憲一郎総務課長補佐、前川恵美総務課長補佐、谷藤太郎学校規模適正化推進室長補佐、佐々木ひづる教育委員

6 経 過

(1)開会

藤井教育部長が開会を宣言

(2)教育長あいさつ

【高橋教育長】

改めまして本日は夕方のお忙しいところお集まりいただき感謝申し上げます。

本日示す検討案について、教育委員会内部での検討、それから内々に学校関係者や保護者、地域の関係者と情報交換をしながら作成に至ったということで、少し時間を要してしました。

本日の推進計画策定委員会は、具体的な教育委員会としての検討案をお示しし、皆さんから忌憚のないご意見をいただきたい。それらを基に再度教育委員会でも検討等を行い、次の委員会では、ある程度の推進計画案という形でお示しし、またご意見をいただくという流れを考えている。

(3)協議等(以下、委員長が議事進行)

【委員長】

前回の第2回委員会では、当委員会のアドバイザーである岩手大学教育学部の田代先生を講師に招き、小中一貫教育についての勉強会を開催した。

本日は、推進計画の構成案や、小中学校の統合の方向性などについて事務局から説明があるので、それらに対して皆さんから忌憚のないご意見を頂戴したい。

次第の3「説明・協議」に移りたいと思う。

これまでの学校規模適正化の取組について、事務局から説明をお願いしたい。

①これまでの学校規模適正化の取組について

- ・ 事前配布資料に基づき、事務局より説明

【委員長】

事前配布の資料に目を通してと思うが、意見があれば挙手をお願いしたい。

【各委員】

(なし)

【委員長】

続いて学校規模適正化・適正配置推進計画構成案について説明をお願いしたい。

②学校規模適正化・適正配置推進計画構成案について

- ・ 資料1-1、資料1-2に基づき、事務局より説明

【高橋教育長】

学校の大きな存在意義というのは、集団の中で子どもたちを育てるということ。

今、不登校やいじめの問題、また配慮しなければならない子どもがいるが、そういうところを踏まえながらも集団の中でどう子どもたちを育てていくか、いずれ子どもたちは社会という大きな集団の中で生活をしなければならないことを考えたときに、学校の集団生活の中でそのための基礎・基本を学ぶこと、ある程度の規模の中で子どもたちを育むことが必要だろうというところが、大きな前提になるのではないかと教育委員会は考えている。決して小規模校が悪いとは思っていないが、それはそれとしてもやっぱり子どもたちにはある程度の規模の中でいろんな経験をしたり、いろんな人間関係を作ったり、時にはうまくいかないこともあるかもしれないが、そういったことも含めて全て、子どもたちにとっては色んな経験になるということで、教育委員会としては適正化を進めていきたい。

一番大きいところは、未来の創り手、一人一人の自分の未来を創れる力、そして社会の中で自己実現を図りながら、社会というコミュニティの中で共生、協力しながら生活していく力を身に付けるために、学校の中でいろんなことを経験させたい、学ばせたい。そのためにある程度の規模が必要だろうということが教育委員会の考え。

【委員長】

今、事務局から推進計画構成案を説明いただいた。結果的には子どもたちのためにとすることが基本にあつての合併統合だと思っている。皆さんも色々考えがあると思うが、この資料は大事な計画案だと思う。

大変しっかりした計画の構成案が事務局から提案された。これに向かって取り組んでいくこととしたいが、よろしいか。

【各委員】

(異議なし)

【委員長】

それでは、構成については事務局の案を進める。具体的な計画が形になってきたら、改めて委員会に諮り委員の皆様から意見を頂戴したい。

続いて、小学校の統合の方向性についてと中学校の統合の方向性について、説明をお願いしたい。

③小学校の統合の方向性、中学校の統合の方向性について

- ・ 資料2-1、資料2-2、資料3に基づき、事務局から説明

【委員長】

小学校は、栗林小と鶴住居小を統合し、白山小については平田小または釜石小との統合を検討していく。

唐丹小については、現在の5つの中学校区に小学校を1校は存続させるとしているため、今回は統合の対象とはしない。

釜石小については、まちづくりや地域コミュニティへの影響も考えられることから、PTAや地域の皆様の意見を伺いながら検討する。

中学校については、釜石東中は学区が広範囲であるため、通学面等を考慮し、統合の対象とはしない。その他の中学校については、令和14年度に釜石東中以外の4校が統合することを前提に、唐丹中は先んじて釜石中との統合を検討し、最終的には釜石中と釜石東中の2校体制とする方向性が示された。

学校、PTA、地域の意見等も資料で見ていると思うが、それも踏まえて事務局の説明を聞いて、様々な意見、疑問点などが思い浮かんだことと思う。忌憚のない意見を頂戴したい。

【委員】

地域コミュニティにこだわると話がちょっと変な方向にいつてしまうのではないか。まちづくりとかそういう話ではなく、子どものことだという話でいくのであれば、東部地区には中学校がなく、中学校は中妻に行っているわけだが、それで何かまちづくりに支障があったのか。

中学校の統合について、釜石東中の学区は栗橋とか漁村部の箱崎白浜まであって広いというが、甲子中だって大松からと広い。もし4校が一緒になると、釜石中は唐丹の本郷とか、平田の佐須のほうから、大松までと広い。地域要件としてそれを言ってしまうと、釜石東中とどこが違うのかという話になる。距離的にも変わらない。

第六次総合計画について、教育委員会の姿は見えるけれども市全体の姿がなんとなく見えない。市役所全体としてどうしたいのか、ただ教育委員会に振って終わりなのか、教育委員会から提言が出たからそうしますよという話なのか。総合計画をやっている以上は市のほうでもこうしていきたいということが見えないと。予算やいろんな施策をつけるのは市長部局。お金が絡むことなので何とも言えないと思うが、市全体としての施策が見えれば楽なのでは。

【事務局】

当然総合計画の中に教育の部分もあり、我々が基本的には責任を持って考えるのはその通りだが、まとめるにあたっては、同じような形で市民の方から話を聞き、あとは当然、市長部局、市長の判断をもってきちんと書き込むような作業を行っている。そこは総合計画、あるいは教育大綱に基づいているのはその通りということで理解いただきたい。

市長部局との連携の部分では、総合教育会議という形で市長と教育長は教育の兼ね合いとか、教育委員会として進めたい方向性というのは共有して一緒に歩んでいると理解している。統合についてもその都度市長部局とは連携を図り、予算の面についても計画的に意見交換をして上層部とも共有しながら進めている。

【高橋教育長】

小野市長が就任して最初の議会の時に、4つの柱ということで教育の充実について掲げたが、市長から学校統合を推進するという言葉があった。ただ具体的な部分については、教育委員会で考えてくれということだった。今回の案についても、市長にはこういうふう

に教育委員会は考えていると話している。

それから、中学校について、我々が検討する中でも中学校は1校でいいのではないかと

いう案も出た。ただ、市内に中学校が1校になった時に、市内にいろんな子どもたちがいるので、ある程度規模の大きい学校でなかなかうまくいかない子どもたちも当然出てくるのではないかと考えている。大きい所、小さい所とはなるが、2校あれば何かあった時に選択できるのではないか。また、市内1校にしたときに、あまりにも学区が広くなりすぎるので、物理的な部分でスクールバス等の確保も現実的なのかということも考えた。

そういった部分もあり、何かうまくいかなかった時に環境を変える選択肢も残しておいたほうが子どもたちにとっていいのではないか、釜石東中を残してその中で小中一貫教育、一緒に連携した教育をすることで釜石東中の人数の少なさをカバーすることもできるのではないか、という判断のもとで、教育委員会の今現在の案としては釜石中、釜石東中の2校体制ということで示した。皆さんからいろいろな意見を頂きたい。

【委員】

そうなった時に、釜石東中は令和15年の65人に対して片方は300人近くの学校になる。それでスポーツ大会でも何でも切磋琢磨できるのか。全部の代表になるのも、部活があるのも大きな学校のほうになる。これはいろんな議論が必要なのだろうと思う。学区が遠いからという理由は言えない。教育長が言ったような、1校では弊害があるからという理由であれば分かる。それから地形的な条件から纏まるところはここしかないよということのようだが、そこら辺の表現をもっとうまく、学区が遠いからという物理的な話と、あとは中心街をどうこうという話は、子どもたちのことをあまり考えていないような理由に見えた。教育長の話を聞いて確かにそれもそうだよねということが分かったが、人数がすごく偏っているので何かいい方法があれば。

【高橋教育長】

学校からも実はそのような意見が出ていた。片方は人数が多く、片方は逆に少ないとな

ったときに、校長先生方からは、むしろ少ない所は特色ある教育等も考えていかないとだめじゃないかという意見が出された。人数の多少ではなくて、こちらの学校は人数は少ないが、こういう特色を生かした教育ができる、ということになればいい。その一つが小中一貫教育ということで、釜石東中は人数が少ない分、子どもたちに多く手をかけることができる部分も出てくるかもしれないが、いずれにしても大きい小さいの単純なことではなくて、小さいけれども特色ある学校づくりということが求められると考えている。

東部地区については、子どもたちにとってどうなのかというところを基本線で考えていかなければならないと思っている。東部地区の方々とお話するときに、やはり東部地区から学校がなくなるということの懸念や、どこもそうだが寂しいという思いが強いこと、東部地区は釜石市の中心街だという思いもあるので議論を重ねていかなければならないのだろうなと思っている。

【委員長】

東部地区の中学校は今中妻にある。東部地区の方と話す時に、東部地区が中心地だからという考え方では進まないと納得してもらえるように説明をしてほしい。もっと強く、子どもたちのためだから、ということをお話してもいいと思う。

【委員】

釜石市が示す教育に則っていくと、「教育の充実」という項目は市内全域の子どもたち皆に公平に保障されて満たされなければいけないものだと思う。釜石東中の子どもたちは資料を見ると増えることはなく、どんどん減少していく状況の中で、子どもたち、PTAの方々、地域の方々にきちんと説明して納得してもらえるような丁寧な作業が本当に大事なのではないかな。そこがない限り実現は絶対できないし、実際に教育の充実を親御さんと子どもたちが望んだときに、やりたい部活を行うために釜石東中ではなくて釜石中の学区に引っ越して、転校した子どももいるし、極端な話では中学校から仙台の学校にご家族で引っ越した方々も知っている。そこはもっと慎重に丁寧に案を積み上げてから示していく必要があると思う。

何より大事なのは子どもたちや、現役の保護者の話。8年計画でやるという話だったが、8年計画の中で実践されるときに親御さんたちの理解、説明がすごく重要になってくると思って聞いていた。今、これがいいという意見は出せないが、現状としてそこだけは丁寧に進めていく必要があるということだけは言っておきたい。

あともう一つ、箱崎白浜地区も震災前に統廃合をやったが、最後に地域の皆と気持ちが一つになった落としどころは、統合した時に子どもたちにベストな方法を皆で模索しようじゃないかとなったところ。複式だったが、統合されると単式になり、学習のカリキュラムとかいろんな面で子どもたちに負担がないようにやっていくには、今回事務局の案では2年と書かれているが、当時の先生には3年ほしいと言われて、3年あれば子どもたちに無理なく、自分たちも一緒に統合に向けて準備をして複式から単式にすると丁寧な説明をしていただいた。最後はそこが落としどころで、皆が一つになって閉校に向かっていったという経緯があった。

【委員】

以前にいただいた資料を拝見すると、統合についてはやむなしという意見が多いように感じたが、あとはどのタイミングでどのように進めるか、具体性が出て来てから色々と議論が始まるのではないかと思う。例えば栗林小の鶉住居小への統合のタイミングをどのあたりに想定しているのか。白山小と平田小、または釜石小をどのタイミングで、例えば釜石小が双葉小と一緒にするのであれば白山小の子どもたちが釜石小に行っても更にもう1回動かなければいけないことになるので、ここが固まってこないとその後の流れが見えてこないのではないかと思う。

中学校についても、唐丹中は先んじて釜石中と統合するという話だが、そうすると1中学校区に1小学校を残すという原則が崩れるので唐丹小も統合の対象となってくるのではないか。このあたりを想定しているのかどうか。そこがある程度方向が固まっているのであればその先議論がしやすいと思う。もし想定しているのであれば伺いたい。

【高橋教育長】

教育委員会では、白山小は平田小への統合ということをまずは考えたい。釜石小と双葉小が統合するとなると、もし双葉小の校舎を使うとまたそちらのほうに行くことになるので、教育委員会としてはそれを避けるためにはまずは平田小を第一に、保護者の意向も聞きながらどうするか考えていきたい。

唐丹小中については、唐丹中が統合になっても小学校を1校残すということが基本方針なので、唐丹地区には当面ということで小学校は残すということ。

【委員】

唐丹には小学校が残るのか。

【高橋教育長】

基本方針に沿って、唐丹小中については、中学校は統合するけれども小学校は当面残す。ただし、そのままずっと残すということではなく、地域と保護者の同意が得られれば統合を考えていきたい。協議は継続していく。唐丹小と唐丹中を一度になくすということはなかなか難しい面があるということでの案ということ。

【委員】

唐丹中の統合があるから小学校も統合があると勘違いしていた。

【高橋教育長】

唐丹小は残すけれども唐丹中は統合しますということ。唐丹中は人数も少なく複式にもなるので、その前に統合したい。

【委員長】

教育委員会から示されている学校統合案は、栗林小をまず鶉住居小に、それから白山小を平田小にということを方向性としては考えているということをご理解いただきたい。

【委員】

基本的なことを伺いたい。学区に1校残すという話だが今現在の学区を教えてください。それに伴って学校を残すということであれば筋は通るが、地域の人から言われたからということで残すあれば、栗林も反対したら残すのという話になるので、学区について今どうなっているのか教えていただきたい。

【事務局】

中学校区ということで、今5つある中学校区に小学校を1つ以上は残すという考え方。東中学区、釜中学区、唐丹中学区、大平中学区、甲子中学区。

【事務局】

あくまで現在の5つの中学校区ということで、表現が分かりづらくて申し訳ないが、そういう理解でお願いしたい。

【高橋教育長】

統合になれば中学校区という考え方も変わってくる。あくまでも今の5つの中学区ということ。

【委員】

今の時点では、ハード面というか大枠をまず決めようという感じなのかなという印象を受けた。前回岩手大学の先生が来てお話ししてくださった時に、子どもが主役、どんな大人になってほしいかというのがまずあって、自立・共生ということを挙げていた。まずどんな教育をすべきかというものがあって、それをするために適切な規模が必要だというのが先なのではないかなと思っている。まず、こことここをくっつけましょう、さあ何をやりましょう、というのは違うのかなと私は感じて、統合したら何ができるのかというのが先にあったほうがイメージは沸きやすいと思った。

地域の方々も、「こういう教育がこれから必要なんだ」「こういう教育を釜石市ではやっていきたいんだ」「自分の地域から小学校と中学校がなくなっても子どもたちがこんな教育を受けられて、大人になった時に例えば釜石市に帰ってきてくれる」、そんなメリットがあるとなれば納得するのではないかなと思うので、先に外枠を決めるのではなく、まず中なのではないかなと思った。

【委員長】

子どもたちのために具体的な方針を、というご意見か。

【委員】

「こんな教育をしたい」というのがまずあって、そのための統合だと思う。規模を確保したいからということにしか見えなかったのが、こういう教育をするんだよというのがあったほうがいいのではないかなと思う。

【高橋教育長】

釜石市が目指す教育として、一つは「未来の創り手」ということで、子どもたちが自分の力で未来を生きていく力を身に付け、それから社会や市の将来的な創り手、担い手になってほしいという思いがある。その実現のためにはある程度の規模が必要だろうと考えている。

学校教育の一番のメリットは集団の中で子どもたちを育てていくこと。学校の集団の中でいろんな経験をして、時には失敗したり。それが少人数で小さいところだとそういう範囲が狭まれてしまうだろう。規模について、先のようなイメージを与えてしまう部分もあるのかもしれないが、基本的に市が将来こういう子どもたちになってほしい、そのためには、その中でいろんな人との関わりとか、人数が少ないよりもある程度の規模があったほうが充実するだろうというところが大きい。

【委員】

それだったら、もっと大きな規模の学校に転校したり、例えば他の市町村に行ったりすることも可能では。釜石市だからこそできる教育というのをビジョンとして掲げてほしい。そうじゃないとどんどん流出してしまうと思う。

【委員】

推進計画の構成案に、小中一貫教育の言葉が出ているが、実際に小中一貫教育の導入はいつ頃を見通しているのか。

【事務局】

具体的にいつからとはまだ決まっていない。鶉住居小と釜石東中を想定しているが、計画では最初に栗林小を鶉住居小に統合して、それから小中一貫教育の導入の準備をしていく方向で考えている。

【委員】

小中一貫教育の導入には相当な時間が掛かると思うので、十分な計画立てが必要だと思う。以前、小佐野中が釜石中に統合する際、事務作業だけでも3年かかった。かなりタイトだったなというイメージ。

小中一貫教育となると、小学校と中学校をただ一緒にやればいいという単純な話ではないと思う。先ほど他の委員も話していたが、一体どういう教育を目指して小中一貫校にするのか、なぜそこなのかという理念が明確でないと多分迷うと思う。柱がないから。そうすると小中一貫校に対してどういう教育理念でなぜそこを掲げるのかという理念づくりと方法論も、今までの小中学校とは全く別になってくる。そういったところを踏まえたスケジュール感が必要になってくると思う。

2つ目。小中一貫教育の経験をしている先生方がかなり少ない。どうやって人材を育成するかは学校任せだけでは多分無理だと思う。なぜなら経験した先生方が少ないから。そうすると、教育委員会としても小中一貫教育をどう育てるかというシステムづくりが必要

になってくる。そのためにはまずは理念が必要だし、教育委員会としてのサポート体制も、取組の中で掲げていけば見えてくるのではないかなと思う。

【高橋教育長】

その通りだと思う。

まずは小学校の統合、そして校舎が一体型なので、釜石東中と鵜住居小の小中連携を図っていきたい。その先として小中一貫教育をどうするかという議論していきたい。時間が掛かるという意見があったが、可能であれば中学校がある程度統合する辺りに、釜石東中は小中一貫教育でこういう教育をしていくということを出せばいいのかなと考えている。

鵜住居小と栗林小の統合がいつの段階になるかというところが関わってくると思う。栗林小の児童数の推移を見ていくと入学者が1人とかゼロになっている年もあるので、特に栗林小については、地域とか保護者の同意が得られれば、できるだけ早く進めていきたい。入学する子が学年1人ということは、子どもにとってあまりいいことではないなと思っているので、そういった部分も考えていきたい。

【委員】

PTA、地域の方々の意見を色々伺って唐丹小は残す、みたいになっているが、唐丹小はほぼ複式なのに残さなければならないのか。何でなの？と思ってしまう。地域やPTAの意見ももちろん大切だと思うが、それを一つ一つ聞いていると動かない。この先が見えてこない。中学校が統合するのであれば、唐丹は今もスクールバスで通っているので、スクールバスに乗って通うのであれば、どこの学校に行こうと中学生と一緒にだったら小学校も大丈夫だし、皆そのようにしてるのだから、地域の方々の意見で残したという言い方はおかしいのではないかという感じはする。

この方針に則って、中学校も釜石中と釜石東中2校になると、人数を見てももちろん釜石中のほうが多くなっているが、スポーツとかは人数が多い方が強くなる。今までもそうだが、人数が少ないところだと活動に限られる。勉強にしてもスポーツにしてもそう。

唐丹から鵜住居に行くにしても三陸道を通れば15分で行ける。中学校は人数を同じように割り振ったほうがいろんな面で戦いやすいのではないか、子どもたちが伸びていくのではないかと思う。

最後に、8年計画でやっていくということで、話し合いがこの先8年間続くのか、5年で終わるのか分からないが、その現状に直面しているPTAの方に交代しながらというのもいいのかなと思う。

【事務局】

まず、適正化推進計画の委員について、計画自体は8年計画で作りたいたが、計画ができた時点で一旦委員の役目は終了ということで考えている。それ以降、また見直しが必要だったり、新たに計画を作らなければならないといったときには、またその時点でのPTAの皆さん等に委員をお願いして委員会を開催することは十分考えられる。今お引き受けいただいている委員は、推進計画が一旦まとまった形を持って終了ということでご理解を

いただきたい。

【高橋教育長】

部活動は、中学校の子どもたちにとっては大きなところ。今なかなか進んでいないが、国でも中学校の部活動を地域移行しようと進めている。釜石市でもいくつかクラブチームができて、実際の大会でもクラブチームで出ているところもあり。明確に釜石市としてはいつからとは言えないが、部活動については学校単位から地域のクラブチーム単位でやる方向性になってくるのではないかなと考えている。

それから地域云々というところは、教育委員会としても先ほど説明したとおり、唐丹小については、「当面は」という言葉を使っている。地域の方と話をしたときも、ずっと残すということではなくて、推移を見ながら、また保護者等の意見、考えを聞きながら、保護者から統合を進めてほしいという意見が出てくれば、また相談をして進めていきたいという考えを話している。

【委員】

先ほど話があったように、理念をしっかりと打ち出さなければならないというのは大きいことだと思う。そして、この学校統合については、私は釜石小も唐丹小もスタートラインはみな同じだと捉えてきた。先ほどの説明を聞くと、唐丹小はいずれとか曖昧な言い方で物を言っているような感じがした。私は皆同じスタートで的確に見ていくべきだと思うし、小学校と中学校の一貫教育も、例えば唐丹小と中学校の間でもあり得ること。そういった例もあることをもう少し皆さんに具体的に説明しないとなかなか理解ができない。なぜ唐丹だけがという思いが漠然とある。スクールバスなどいろいろな問題があるかもしれないが、そこら辺はあとでついてくる問題だと思うので、説明をお願いしたい。

【高橋教育長】

この推進計画の策定については、昨年度から「教育委員会はこういう考えで学校統合を進めていく」という基本方針を出しており、その基本方針に従って今回の推進計画案を出している。その基本方針を策定する際にも説明をしながら、その前に学校規模適正化検討委員会を立ち上げて議論してもらって、出された提言を基に基本方針を策定している。その流れの中でやっていることなので、決して一貫性がないということではなく、そういうものに則っていますということ。この中で意見を聞きながらというのはその通り。あくまでもそういう基本方針に則っての推進計画案ということ。

【委員長】

1回目の委員会の時に、この委員会からはどのようにしたらより良く進むのかという意見を頂戴したいと、学校統合をするしないという話をする会議ではないことを皆さんに承諾いただいた覚えがある。今日示された統合の方向性も、これからの市の方向性でも、教育委員会で検討していかなければいけない。

現在、市内の中学生が600人。10年後の数を見たら300人。半分になる。これを大きい人数と小さい人数にするのかとか、例えば9年制の一貫教育にして特性を生かした学校

を作るという方向づけができれば、もしかしたら子どもたちが選んで釜石東中に通うことも可能になるのではないか。いろんな教育の方向性が見えていた中で、今日皆さんにお示した方向で進めていきたいということでご理解いただきたい。

もちろんご意見は沢山出していただき、教育委員会でも練っていただき、どうすれば釜石市の子どもたちがより良い教育を受けられる環境を作れるのか。あまり学区にこだわらず、「釜石の子どもたちのために」ということを一番基本にして進めてもらえれば結果的には親御さんや地域の理解がもっと深まるのではないかと。頑固に唐丹地区に学校を残す云々という問題ではなく、こういう教育をするために、子どもたちにはこれがいいということを示すことができれば統合が進むのではないかなと私は思っており、そういうご意見を皆さんからいただくために今日この場を設けている。意見があればお願いしたい。

【委員】

質問だが、釜石中が4校の中学校を統合した場合に今の釜石中の建物で大丈夫なのかなという漠然とした疑問がある。見通しのものは分かっているのか。

【事務局】

令和14年度に4校統合した場合の学級数が12学級になる見込み。今釜石中で普通教室が15教室。キャパ的に15教室使える。その他に特別支援教室として2教室ある。そう考えると、14年度で12学級であれば入れるのではないかと見込み。令和13年度となると13、14学級。例えば特別支援学級や教育支援センターに使うための教室が必要だということを見ると14年度以降じゃないと釜石中には入らないという現状になっている。

【委員】

それに関連して。統合して釜石中になった時にグラウンドは昭和園も使っていた。キャパ的に入るとのことだが、今は昭和園もないし、二中の跡地もない。そうするとどうやって子どもたちが狭い所で部活をやるのかも含めて、例えば統合した残りの学校を更地にして子どもたちが使えるようにとか、あそこを買ってまでという話ではなくそのようなことも考えて、よろしくお願いしたい。

もう一つ。釜石ではこれまでも統合をしている。小佐野中が統合した当時はすごい議論になったと思う。それなりに十何クラスあった小佐野中をなくして統合しているが、もしその時の議事録で、いろんな意見があってそれが活かされていること、こういうのが良かった、悪かったということがあれば、私たちも経験が足りないもので、後でちょっとだけでも教えてもらえれば。私たちが小学校、中学校の頃にはこれの倍以上学校があったはず。だから多分、先人たちが統合してきたその当時もかなり苦労したと思うので、特に小佐野中と釜石一中、二中の統合の時、宿題ではないが、もしいろんな意見があっただけでいいというのであれば参考までに教えてもらえれば。

【高橋教育長】

校庭のことは我々でも結論が出ているわけではなく、逆にこうした時にこんなことが課題になってくるのではというところを出していただければありがたい。我々が気づかない

こともあるので、統合した時に校庭が狭くて、もしかすると子どもたちの活動に支障が出る面があるのではないかと、このあたりが懸念じゃないか等、そういうところを出していただいて検討材料にさせていただきたい。

【委員】

小学校の統合とかをこの場で決めるというわけではなく、方向性の話なので、いろんな方向性を示していただくのが我々にとっては参考なるのかなと思う。その中からこういうのがいいよね、と模索していければいいのかなとは思う。

前の話になるが、釜石東中が建つときにもこういう話し合いをした。でも結局話し合いで出たこととは全く違う内容で決まったという経緯があったので、せっかく集まって皆さんから意見をいただいたのに、それがなかったことになるようなことにしてほしくない。もし、この内容から180度変わるような時には、委員の皆さんに示していただきたい。

【委員長】

その他、意見があれば。

【各委員】

(なし)

【委員長】

なければ今日の会議はこれで終了とさせていただきます。

【高橋教育長】

今回お示したのは事務局検討案で、教育委員会としてはこう考えているというところ。それに対して、こういう懸念があるのではないかと、こういうところはどうなんだろうとか、色々ご意見として頂戴して教育委員会として協議をしていきたい。

繰り返しになるが、あくまでも教育委員会からすると、今回の推進計画の案については、提言を受けて基本方針、例えば中学校であれば教科担任が充実したほうがいいということで、9学級以上が必要だと考えた。9学級以上にするために、中学校はある程度規模を大きくしなければならない。その時の議論として、当然中学校を1校にもできるという案もあった。

教育委員会の中で、1校にした時の問題は、大きい学校に馴染めない子がいた時、その子たちはどうしたらいいのかということ。1校だと色々支障があるのではないかと、その時にもう1校あれば、そちらで環境を変えて生活することもできるのではないかと、市内に中学校が2校になる場合、例えば学区を自由にして大きな学校で勉強したい子、それから大きい学校だとなかなか自分自身の良さを発揮できないからむしろ人数の少ない学校で勉強したいという子どもがいれば、そういう選択肢も考えられる可能性もあるのではないかと。これは先のことだが、教育委員会内部で色々議論して今回の提案をした。それから物理的な部分で、スクールバスの確保ができるのか、という部分も懸念され、今回こういう案としてお示した。

小学校については、これまでも子どもたちは地域にお世話になりながら成長していると考えている。そう考えた時に、唐丹だけと言われるが、唐丹から小中学校がなくなってしまうのはちょっとどうなのかという懸念があったので、こういう形で進めたらどうかという教育委員会としての提案としている。

それから、釜石小と双葉小も、釜石小も複式になるので統合を進めていきたいという方針での今回の提案となる。ただ、強引に進めるのではなく、保護者や地域の合意が得られる中で進めていきたい。粘り強くやっていくしかないところもご理解をいただきたい。

近くの自治体で、色々あって統合時期が延びたところがあった。そういったこともあり、教育委員会としては丁寧に進めたい。急がなければならない部分と丁寧に進めるというところで矛盾もあると思うが、両方でやっていく必要があると思っている。今日の委員会はこれで終わりとなるが、その後でも、心配なところや考える必要があること等、ご意見があればいつでも構わないので、事務局のほうに寄せていただきたい。

【委員長】

その他について、事務局から何か。

④今後のスケジュールについて

- ・ 資料 4 に基づき、事務局より説明

【委員長】

委員からその他何かあれば。

【各委員】

(なし)

(5)閉会

(教育部長あいさつ)